

のんの様

愛用ミシン:トピアエース 802 型

## ミシンと家族

記憶に残る小学生の頃の服は、写真に残っていた懐かしい、黄色の花柄のスカートとお揃いのボレロ、上衣等、10歳離れた当時20代だった兄が作ってくれたものでした。母も洋裁や編み物など手作りが好きで、服やセーター、色々な小物等、沢山の思い出を残してくれました。兄が使っていたのは、母の足踏み式ジャノメミシン。私も母や兄を見て洋裁が好きになり、学生の頃に色々な服が欲しくて、安価な布地を求め、複雑なものは縫えませんでした。簡単なブラウスやスカートを縫い始め、少しずつミシンが上手に使えるようになりました。

昭和40年代、私は嫁入り道具に母と同じジャノメのミシンを持参しました。3人の子供にお揃いの服や、夫のシャツ、カバンや人形の服等色々な小物を作り、布選び、型紙作りと家族と楽しい時を過ごしました。

今使っているミシンは、ジャノメトピアエース 802 型、使い方の手引きを手元に置いていますが、表紙のモデルさんのパンタロン姿や、髪形を見ていると懐かしく、時の流れを感じ長い間使っているのだと思います。その後、足踏み式を電動に替えて、より便利になり、増々ミシンに向かうことが多くなりました。

今は常に使えるように布をかけて出したままに、これまで何度も修理をしていただき、使い慣れて現在も活躍中です。当時最新だったのか、色々なカムがついていて最初は何度か使ったものの使いこなせないままケースの中に、主に使うのは直線、ジグザグ、ボタンホール位でした。今は昔と違って安価ですぐ手の届くところに既製品がありますが、手作りは心の贈り物と思い

**JANOME**  
**100**  
YEARS  
since 1921

50 年間に数えきれない程の作品を家族と共に楽しみました。途中、娘のためにと卓上型のジャノメエクセル 18SP を購入したものの、出番なく、長い間押し入れに眠ったままになっています。使い慣れた自分のミシンがやはり一番です。

最近このミシンが大活躍することになりました。コロナウイルスの流行で、最初の頃マスク不足で大変でした。兄は 90 歳を前に自宅に来てもらってのリハビリ中です。マスクがなくてはなりません。直線縫い、ジグザグ縫いの出番です。

ミシンを使っていた兄も歳と共に使わなくなり、それでも何年か前までカバンやカバー等ミシンを使っていたようです。小さい時に服を縫ってもらっていた兄に、ミシンを使ってお返しができる時が来ました。兄が若い頃会社の添乗員として行った沖縄で母のために求めた琉球緋の布、母が縫って着ていた着物、今は形見にと着物と残布が私の手元に、この布で兄にマスクを作って送ることにしました。母の思い出と共に、1 枚は兄に、もう 1 枚は自分用に素敵なマスクが出来上がりました。それと一緒に、兄、兄嫁、姪に色々な布でマスクを作って送ることができました。今は市販のマスクが出回り送ることはありませんが、我が家は手作り布製マスク派です。ミシン好きによくある、小さな布も捨てられず残しているからです。着物地、服地、ハンカチ等沢山のマスクを作りました。



今は市販のマスクが出回り送ることはありませんが、我が家は手作り布製マスク派です。ミシン好きによくある、小さな布も捨てられず残しているからです。着物地、服地、ハンカチ等沢山のマスクを作りました。

今はもう昔のように手の込んだものは作れませんが、家族のリクエストに応じて、楽しみながら、ミシンを踏んでいます。母や兄のようにいつまでも、箆笥に眠る多くの布とジャノメミシンが側にある暮らしが続きますように願っています。